

北海道における国際会議等誘致の取組と現況について

北海道
平成27年4月23日(木)



◆国際会議等の北海道開催推進に係る取組と方針



○ 北海道では、2008年に開催された北海道洞爺湖サミットを契機に、従来から進めてきた国際会議等誘致の取組を強化

北海道における国際会議等誘致の取組

- ◆官民一体となった誘致活動を行うため、道内経済界等と連携し、『北海道国際会議等誘致推進会議』を設置(H20.9)
- ◆国際化推進のための庁内組織である「国際化推進会議」(H元設置)に、「国際会議等誘致推進部会」を設置し、庁内連携を強化(H20.9)
- ◆各種学会等も含めた幅広い誘致活動を行うため、道内市町村及びコンベンションビューロー等とも積極的に連携
- ◆知事名による招請レター発出等

「国際会議等の北海道開催の推進について」 (H20.7.4 閣議了解) に基づく国からの支援

- ◆「国際会議等の北海道開催の推進に係る各省庁連絡会議」の開催(H20.7設置)
- ◆向こう5年間の国際会議等の開催計画等、各省庁における会議開催情報の提供
- ◆各省庁担当者と市町村等担当者が一堂に会する「情報交換会」の開催(マッチング支援)
- ◆大臣名等による招請レター発出等

世界が注目する大規模国際会議はもとより、本道の独自性を活かした様々な国際会議等を開催することにより、**北海道ブランドをより戦略的かつ効果的に発信**

『人と地域が輝き、環境と経済が調和する世界にはばたく北海道の実現』

(新北海道総合計画(ほっかいどう未来創造プラン)H20. 3)

アジアNo1の国際会議開催国として不動の地位を築く等、**政府全体の目標達成と「観光立国」の実現に貢献**

『アジアに輝く北の拠点～開かれた競争力ある北海道の実現』

(第7期北海道総合開発計画(地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画)H20. 3)

◆北海道における国際化の推進と国際会議の開催



- 「北海道国際化推進指針」(H23年3月)に基づき、海外の自治体等との交流、国際交流団体等との連携、国際会議等の開催を通じた多様な交流の展開など様々な分野で国際交流の拡大に取り組み、国際化を推進
- **国際化の推進によって北海道が広く世界に認知**されることにより、国際会議等の北海道開催推進を後押しする効果を期待

～国際化の推進～

- ・ 国際化のための基盤づくり
- ・ 国際展開による北海道経済の振興
- ・ 人材育成と魅力ある地域づくり

**「世界中の北海道」
を広く世界に認知**

～国際会議等の開催～

- ・ 北海道の魅力を効果的に発信
- ・ 交流プログラム等を通じた道民との多様な交流
- ・ 経済効果

北海道における海外とのネットワーク(姉妹・友好提携)



▲ソウル特別市との友好交流



▲周年事業(カナダ・アルバータ州)



▲周年事業(マサチューセッツ州)



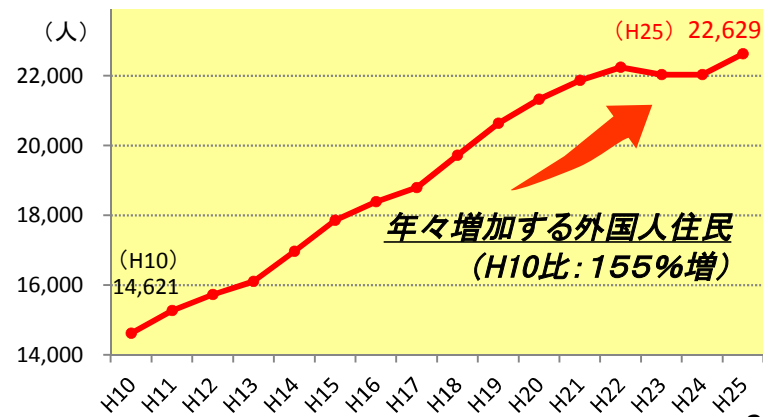
▲「姉妹友好提携地域代表者会議」
(2010年11月:札幌市)

◇北海道の姉妹友好提携地域等

- カナダ アルバータ州 (1980年～)
- 中国 黒竜江省 (1986年～)
- アメリカ マサチューセッツ州(1990年～)
- ロシア サハリン州 (1998年～)
- 韓国
 - 釜山広域市 (2005年～)
 - 慶尚南道 (2006年～)
 - ソウル特別市 (2010年～)
- タイ チェンマイ県 (2013年～)

◇道内市町村でも、114組(74市町村)の姉妹友好提携を、海外の都市等と締結

北海道の在住外国人の推移



※法務省「在留外国人統計」より(各年12月末現在) 2

◆訪日外国人来道者数



- 平成26年(暦年)における訪日外国人来道者数は、**1月から9月までの集計で初めて100万人を突破した前年の記録を更新**
- 前年に続き、日本全体の訪日外客数(H26:約1,341万人※)の1割を占める勢い
- 国・地域別では、タイをはじめとしたアジア各国のほか、各地域で増加

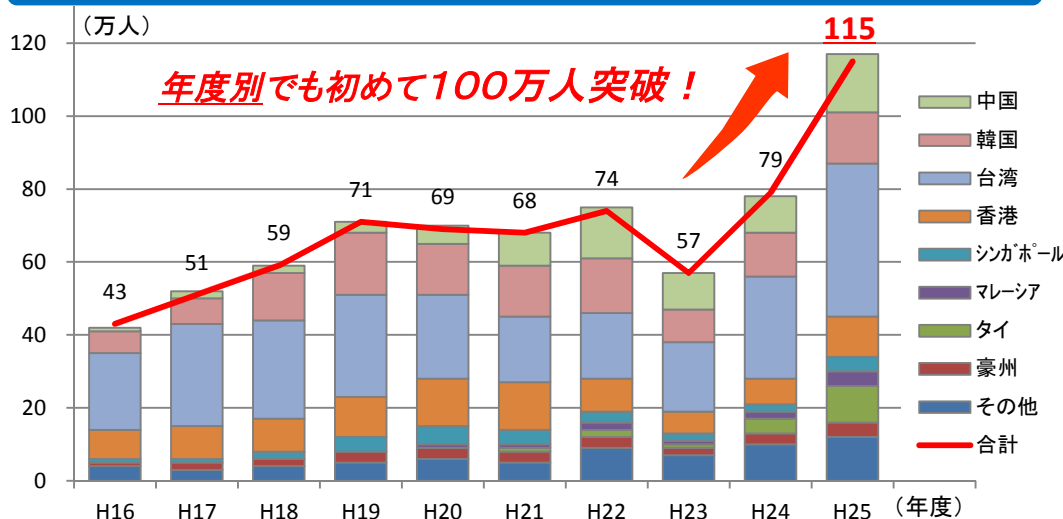
※日本政府観光局(JNTO)公表資料より

暦年の推移(過去3年)

	1~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	計
平成24年	213,200	143,800	231,700	167,600	756,300
平成25年	247,300	197,000	333,400	237,000	1,014,700
平成26年	385,700	253,100	400,900	※集計中	1,039,700

平成25年に初めて100万人を突破！(日本全体(約1,036万人)の約1割)
平成26年は、9月までの集計で、既に昨年の記録を更新！

年度別 訪日外国人来道者数の推移



国・地域別の内訳(平成25年度分)

国・地域	来道者数	前年同期比	構成比
アジア	中国	+54.9%	13.7%
	韓国	+14.6%	12.3%
	台湾	+48.0%	36.0%
	香港	+47.8%	9.3%
	シンガポール	+51.5%	3.1%
	マレーシア	+65.5%	3.2%
	タイ	+167.0%	8.6%
ロシア	13,100	+18.0%	1.1%
米国	33,500	+41.4%	2.9%
カナダ	10,700	+13.8%	0.9%
オーストラリア	35,400	+20.4%	3.1%
その他	66,800	+21.2%	5.8%
合計	1,153,100	+45.9%	100.0%

【JNTO認定外国人観光案内所】

- 1 東京都 43カ所
- 2 静岡県 34カ所
- 3 北海道 29カ所 (全国計465カ所)

北海道の認定件数は、全国3位！



(※日本政府観光局(JNTO)公表(カテゴリー3~1及びパートナー施設の合計数で、平成26年12月現在)

◆北海道のもつ独自性・優位性～「北海道価値」



優れた自然環境、安全・安心な食、人々を魅了する観光資源や多様なエネルギー資源、自然と共生するアイヌの人々の歴史・文化等は、**世界に誇る「北海道価値」**

○ 優れた自然環境

湖沼、河川、火山、温泉、湿原など全国でも類い希な変化に富む自然と数多くの動植物に恵まれています。

世界自然遺産・知床などに代表される本道の美しく豊かな自然環境は、世界に誇れる財産です。6つの国立公園、5つの国定公園、12の道立自然公園は、優れた観光資源として、国内外の来訪者をひきつけ、アウトドア活動のメッカにもなっています。

○ 多様なエネルギー資源

風力、太陽光、農畜産廃棄物など、多様なエネルギー資源があり、風力発電の賦存量は全国1位。また、雪氷冷熱に適した積雪寒冷な気候、森林・農産物などの多様なバイオマスなどもあるほか、水素エネルギーを活用した燃料電池の研究も進められており、新エネルギーの宝庫といえます。

○ 豊かな水と森林

道民一人当たりが使用できる水資源は、全国平均値の約3倍。きれいな河川・湖沼調査でも、上位に多くの河川、湖沼が入っています。森林は、国土の森林面積の22%を占め、林業産出額は、全国2位となっているほか、国土保全や地球温暖化防止などの面で貴重な役割を担っています。

○ 安全・安心で美味しい食

農業の産出額、水産業の漁獲量・漁獲高が全国1位。食料自給率は約200%であり、カロリーベースで我が国の食料供給の約2割を担っています。道では、環境にやさしく、安全・安心でおいしい農産物を生産するため、たい肥などの有機物を使った健全な土作りに努め、「クリーン農業」の取組を進めています。

○ 独自の歴史・文化

本州と比べ歴史が浅いと思われがちな本道ですが、道内には自然とともに生きるアイヌの人々の歴史・文化があります。また、急速に近代化を成し遂げた歴史は、開発途上国のモデルともなっています。本道の歴史や北方の風土、開放的な土地柄は、進取の気質に富む個性ある文化を育んでいます。

○ 冬・雪・冷涼

北方圏に属する本道は、他の北方圏諸国と比較して低緯度でありながら降雪量が多く冬が長いこと、流氷が到来する最南端の地であること、四季の変化が明瞭であるといった気象特性を有しています。冬の寒さ、積雪と融雪、夏の冷涼さなどは、冬や雪のハンディを克服する工夫や仕組みを促してきたばかりでなく、本道の暮らしや産業、文化、技術などに豊かな恵みと多くの価値をもたらしています。



～北海道の特性を活かし、世界から高く評価される国際会議に～

◆北海道の自然・文化等



＜開拓史時代の洋風建築＞
（札幌時計台、豊平館ほか（北海道遺産））



＜稚内港北防波堤ドーム＞
（北海道遺産）



＜旭山動物園＞



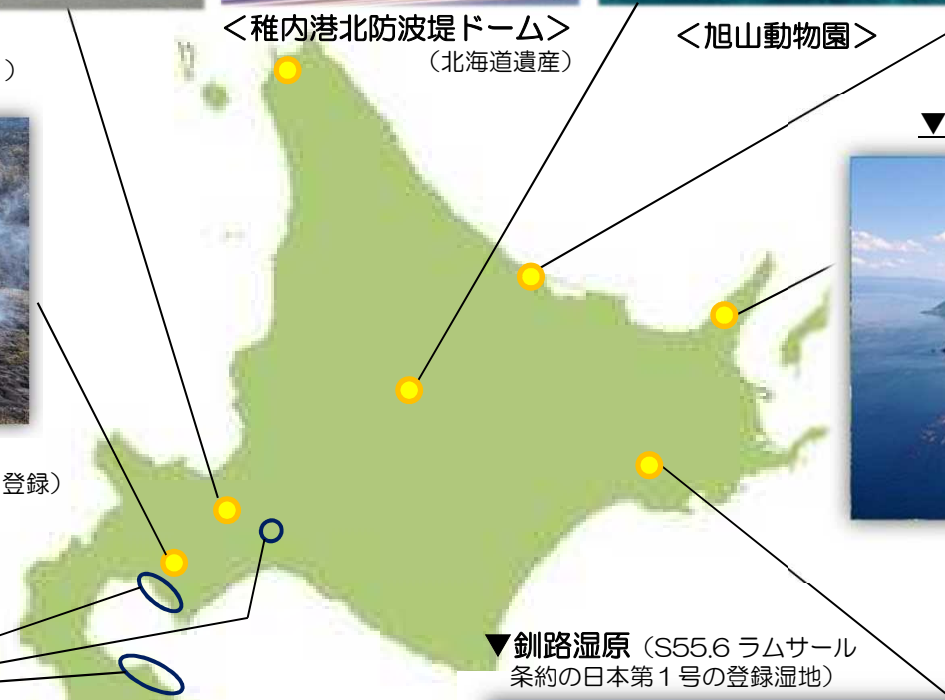
＜流水とガリンコ号＞
（北海道遺産）



▲洞爺湖有珠山ジオパーク
（H21.8 日本で初めて「世界ジオパーク」登録）



▲北海道・北東北を中心とした
縄文遺跡群(H21.1 世界遺産暫定一覧表記載)



▼知床（H17.7 世界自然遺産に登録）



▼釧路湿原（S55.6 ラムサル条約の日本第1号の登録湿地）



＜函館の夜景＞



＜北海道のラーメンとジンギスカン＞
（北海道遺産）

◆これまでの誘致成果



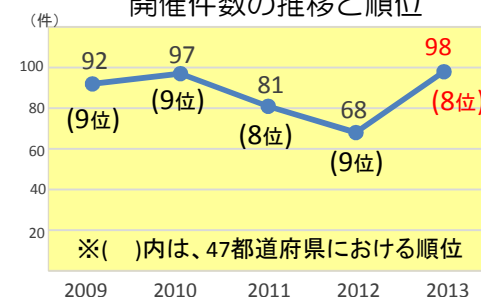
北海道洞爺湖サミット以降における主な国際会議等の開催状況

- 2008年12月 第1回 G8水と衛生に関する専門家会合 【帯広市】
- 2009年5月 第5回 日本・太平洋諸島フォーラム首脳会議 【占冠村】
(太平洋・島サミット)
- 2009年6月 第8回 日豪観光交流促進協議 【二セコ町】
- 2009年6月 第7回 日ASEAN次官級交通政策会合 【函館市】
- 2010年5月 第12回 日中韓三カ国環境大臣会合 【千歳市・苫小牧市】
- 2010年6月 日本APEC貿易担当大臣会合 【札幌市】
- 2011年5月 第15回 日・オーストリア21世紀委員会 【小樽市】
- 2012年6月 第5回 日中航空政策対話 【釧路市】
- 2012年10月 第13回 北東アジア港湾局長会議及びシンポジウム 【小樽市・札幌市】
- 2012年10月 第27回 日韓観光振興協議会 【函館市】
- 2013年11月 第13回 日中韓特許庁長官会合 【札幌市】
- 2014年2月 第11回 日ASEAN港湾保安専門家会合 【札幌市】
- 2014年11月 第17回 FATS WG (Future Air Transportation System Working Group) 【札幌市】
- 2014年12月 第6回 日本・ニュージーランド会議 【札幌市】
- 2015年1月 東アジア・オーストラリア地域・フライウェイパートナーシップ (EAAFP) 第8回パートナー会議 【釧路市】

開催件数 (都道府県別トップテン)

順位	都道府県	2013年
1	東京都	537
2	大阪府	314
3	福岡県	312
4	神奈川県	234
5	京都府	179
6	愛知県	154
7	兵庫県	110
8	北海道	98
9	宮城県	81
10	広島県	64

▼北海道における国際会議開催件数の推移と順位



※()内は、47都道府県における順位
(「日本政府観光局(JNTO)国際会議統計」を基に道庁が作成)

＜民間・学会等主催の主なもの＞

- 2013年7月 第8回 日中韓賢人会議 【洞爺湖町】
- 2013年12月 第20回 ディ스플레이国際ワークショップ 【札幌市】
- 2014年7月 第26回 有機金属化学国際会議 【札幌市】
- 2014年7月 第9回 国際反芻動物生殖科学シンポジウム 【帯広市】
- 2014年7月 第11回 アジア・大洋州地球科学会年次総会 【札幌市】
- 2014年9月 第9回 日米協会国際シンポジウム 【札幌市】



第8回「日中韓賢人会議(洞爺湖町)」

◆交通アクセス～道内空港の概況～



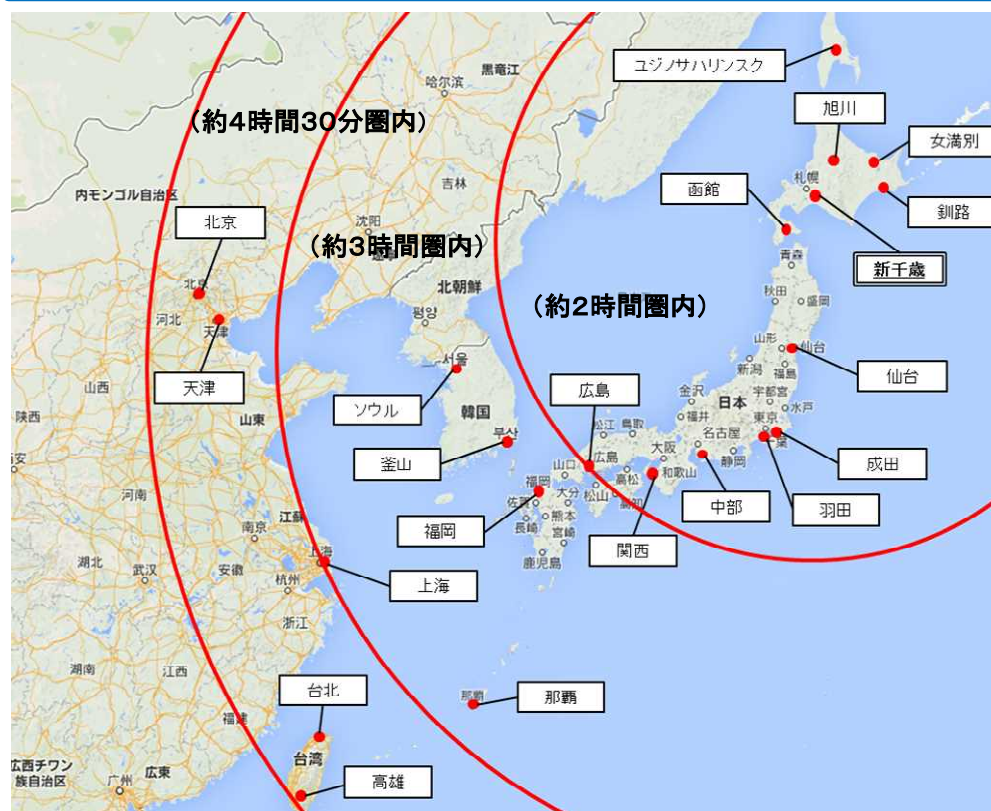
○道内空港に発着する国際定期航空路線は、新千歳、函館、旭川空港と東アジア地域とを結ぶ路線を中心に16路線

※路線数等は平成27年3月末現在（運休中路線除く）

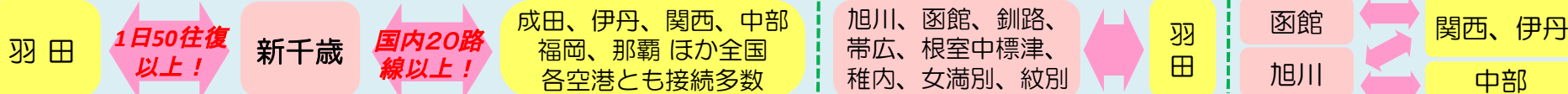
道内空港の国際定期航空路線

空港	路線	航空会社	便数
新千歳	ソウル	大韓航空	週14往復
		ジンエアー	週7往復
		ティーウェイ航空	週7往復
	北京	中国国際航空	週3往復
	天津	天津航空	週2往復
	上海	中国東方航空	週5往復
		春秋航空	週5往復
	香港	キャセイパシフィック航空	週4往復
		香港航空	週5往復
	台北	エバー航空	週10往復
		チャイナエアライン	週7往復
		トランスアジア航空	週2往復
	高雄	チャイナエアライン	週5往復
	バンコク	タイ国際航空	週7往復
グアム	ユナイテッド航空	週2往復	
ホノルル	ハワイアン航空	週3往復	
ユジノサハリンスク	オーロラ航空	週2往復	
函館	天津	天津航空	週2往復
	台北	トランスアジア航空	週3往復
旭川	北京	中国東方航空	週3往復
		春秋航空	週2往復
	上海	中国東方航空	週3往復
		春秋航空	週2往復
台北	トランスアジア航空	週2往復	

新千歳空港から主要空港への所要時間



国内各都市とのアクセスも充実



新千歳空港から札幌駅は、**JR快速エアポート** で最速37分!

羽田空港へは、新千歳のほか道内各空港からもアクセス可能!

◆道内各地の主なコンベンション施設等



札幌

▲札幌コンベンションセンター

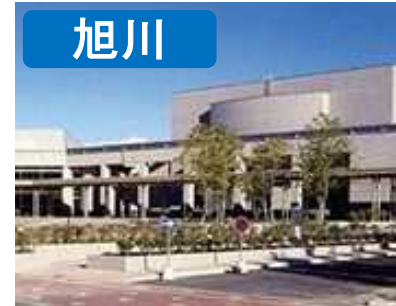
- 主な開催実績
- ・2010 A P E C 貿易担当大臣会合
 - ・第19回国連軍縮会議 等



▲APEC貿易担当大臣会合
※右写真はメディアセンターの様子
(同センター隣接の施設に設置)



✈ 稚内空港



旭川

▲旭川大雪クリスタルホール



北見

▲北見芸術文化ホール



[道立道民活動センター]

◀かでの2・7

- 主な開催実績
- ・日本ニュージーランド会議
 - ・FATS 等



函館

2015年8月オープン予定

▲函館アリーナ

- 主要施設
- メインアリーナ (最大5千人収容)
 - サブアリーナ、多目的会議室 等

◇HPで、パンフレット掲載中

<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014022000038/>



✈ 旭川空港

✈ 紋別空港

✈ 女満別空港

✈ 中標津空港

✈ 釧路空港

✈ 帯広空港

✈ 新千歳空港

✈ 函館空港

▼ザ・ウィンザーホテル洞爺



▼アルファリゾート・トマム



釧路

▲釧路市観光国際交流センター

- 主な開催実績
- ・ラムサール条約締結国会議
 - ・東アジア・オーストラリア地域
フライウェイパートナーシップ

道内その他地域の施設等

◆ザ・ウィンザーホテル洞爺 (洞爺湖町)

- ・北海道洞爺湖G8サミット
- ・第8回日中韓賢人会議

◆アルファリゾート・トマム (占冠村)

- ・第5回太平洋・島サミット

◆とちちプラザ (帯広市)

- ・第1回 G8水と衛生に関する専門家会合

◆函館国際ホテル (函館市)

- ・第7回日ASEAN次官級交通政策会合
- ・第27回日韓観光振興協議会

◆あかん湖鶴雅リゾート (釧路市)

- ・第5回日中航空政策対話

◆ヒルトンニセコビレッジ (ニセコ町)

- ・第8回日豪観光交流促進協議

とちちプラザ▼



◆ユニークベニュー・エクスカーション等



＜モエレ沼のガラスのピラミッド（札幌）＞



世界的な彫刻家イサム・ノグチにより設計された、全体を一つの彫刻とした公園。雪冷房を利用した園内のガラスのピラミッドでは、緑とピラミッドの調和した幻想的なパーティーやセレモニーを演出します。

＜SL冬の湿原号（釧路）＞

迫力のあるけむりと蒸気が見る人を感動させます。車内では昔ながらのダルマストーブを囲んでスルメを炙りながら、参加者の交流を深める最適なエクスカーションツールです。



＜ワッカ原生花園＞

オホーツクとサロマ湖を分ける砂洲の中にある原生花園で、300種を超える花が群生し、可憐な花を咲かせ、訪れた観光客を魅了します。エクスカーションには欠かせないスポットになっています。



＜雪の美術館（旭川）＞

大雪山系のふもと旭川市には、日本で最も美しい雪の結晶が降ります。そんな旭川の丘の上にある雪の美術館は、建物から展示まで全て雪をイメージしてつくられた美術館です。

館内の「雪の館」では、最大100名様まで食事にご利用いただくことができます。



～エクスカーション例（札幌市内：半日程度）～



①大倉山ジャンプ競技場



②ウィンタースポーツミュージアム



③白い恋人パーク工場・ショップ見学



④サッポロビール園（見学・食事）

＜函館山ロープウェイ山頂施設（函館）＞



函館山山頂から望む市街地の夜景は、香港、ナポリと並ぶ世界三大夜景になっています。

宝石を散りばめた扇のように海に浮かぶその光景は見る方に感動をあたえます。夜景を眼下に思い出に残るレセプションパーティーが楽しめます。

～各種アトラクション等～



YOSAKOIソーランの演舞



アイヌ舞踊の披露



道産食品発信イベント

北海道博物館
HOKKAIDO MUSEUM
(愛称：森のちゃれんが)

新しい展示のポイント

3つの新しい視点

「北東アジアの中の北海道」、「自然と人との関わり」というコンセプトに加え、「アイヌ文化の歴史性」という視点を取り入れ、北海道の自然、歴史、文化を描きます。

5つのテーマ

1階から2階にかけて、5つのテーマを展開します。各テーマは回廊によって結ばれ、自由な順序で閲覧できます。各階には「交流ゾーン」があり、対話や情報提供、レクチャーなど、さまざまな交流の場として活用されます。



＜アクセス＞

新千歳
空港

JR
約30分

新札幌

札幌駅

バスで約10分

H27.4.18オープン

◆各種サポート体制



北海道コンベンション誘致推進協議会

- 北海道コンベンション誘致推進協議会は、国内外の学術団体・企業等のコンベンション主催者に、北海道の良質なコンベンション環境を紹介し、北海道へのコンベンション誘致の推進に資することを目的として、1993年に設立。
- 現在は、札幌・旭川・函館・釧路・北見の各都市のコンベンション誘致支援機関及び北海道で構成されており、2008年に開催された“北海道洞爺湖サミット”で培われたノウハウと、各構成都市のネットワークを最大限に活用して、《北のおもてなし》で、魅力あふれる印象深いコンベンションの開催をサポート。

(公財)札幌国際プラザ
 (一社)旭川観光コンベンション協会
 函館市／(一社)函館国際観光コンベンション協会
 北見市観光協会連絡協議会
 釧路市／(一社)釧路観光コンベンション協会
 北海道／(公社)北海道観光振興機構

◇URL http://www.conventionsapporo.jp/hokkaido_convention/
 ◇メールマガジン ~各地域のイベントや支援の情報を発信~
<http://conv-promotion.mash-net.jp/regist.php>



各種学会、企業等への支援

『北海道コンベンション誘致促進助成金』

1. 助成の対象となるコンベンション
 2日間以上にわたって開催される学会、会議等のうち「北海道外（外国を含む。）からの参加者が全体の2分の1以上」かつ「開催される市町村またはコンベンションビューロー等から助成金が交付されるもの」であって、次のいずれかに該当するもの。
 ア 参加者が300人以上であり、かつ、そのうち外国からの参加者が50人以上の規模で開催される国際的なコンベンション
 イ 参加者が1,000人以上の規模で開催される全国的なコンベンション
2. 助成額 100万円～300万円（上記1の区分による。）

※主催者が国または地方公共団体のもの、営利又は収益を目的としたもの等は助成の対象となりません。

▼詳しくは北海道のHPへ

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/370-convention/convention.htm>

北海道コンベンションガイド

会議主催者に対して、北海道内の地域情報や会議施設、宿泊施設等の情報をウェブサイトで、多言語で発信・提供し、北海道での国際会議誘致を促進。

◇URL <http://www.hiecc.or.jp/hcg/>



国際会議等の北海道開催推進について、引き続き、
各省庁の皆様のご指導・ご支援をお願いいたします。



【お問い合わせ】

北海道総合政策部知事室国際課
国際企画グループ（国際政策・国際会議）
（担当：木下・田口・福山・高橋）
〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目
TEL：011-231-4111（内線21-215）
011-204-5091（グループ内直通）
FAX：011-232-4303